

スーパー耐久シリーズ 2026 第 6 戦スーパー耐久レース in 岡山 95 号車 SPOON リジカラ CIVIC、トラブルでリタイヤ



10 月 24 日(土)～25 日(日)、岡山県の岡山国際サーキット(3.703km)でENEOSスーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第 6 戦スーパー耐久レース in 岡山が開催され、95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」(小松一臣/小出峻/三井優介)は、今季 2 度目の予選 ST-2 クラス 2 位のポジションを獲得しています。決勝は、スタート時のフルウェット路面の中、三井の巧みなマシンコントロールで首位を奪取しますが、4WD 勢の猛追により 4 位に後退。その後小出が 2 位までポジションを上げるも小松に交代直後にマシントラブルが発生します。ピットまで戻り、懸命な修復作業をつづけましたが、チェッカーを受ける事は叶わずそのままリタイヤとなりました。

第 6 戦は、24 日に全クラスの予選が行なわれ、25 日にグループ 1 と 95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」が属するグループ 2 に分かれ、それぞれ 3 時間の決勝レースを行う 2 レース制で開催されました。95 号車はここまで優勝 2 回、2 位 1 回、4 位 1 回の成績でシリーズ首位に 7.5 ポイント差の 2 位。サクセスウェイトは前戦の SUGO から最大量の 70kg を搭載したままなので、岡山でも厳しい戦いが予想されました。24 日の公式予選時の天候は曇り、予選スタート時点では気温 23.3 度、路面温度 21.6 度、コースはところどころにウェットパッチが見られるもののドライタイヤでスタートしました。結果、A ドライバー小松がクラス 2 番手、B ドライバーの小出はクラス 3 番手を記録、合算タイムでクラス 2 位のスターティングポジションを獲得しました。

25 日の決勝は朝から小雨がパラつき、ウェットレース宣言が掲示。気温、路面温度とも 21 度でグループ 2 のマシンがコースインする頃に雨足が強くなり路面は完全なウェットへと変わりました。これにより 8 時 30 分のスタートはセーフティカー(SC)先導となり、3 周目に SC が解除されるとスタートドライバーの三井はすぐに 95 号車をトップへと押し上げました。しかし、ウェット路面では絶対的なトラクション性能を有する 4WD 車の攻勢には対処できず、17 周目には 4 位へと後退してしまいます。

30 周目に 1 回目のピットインで小出に交代、5 位でコースに復帰するとスリックタイヤを得た小出はベストラップを次々と更新する猛追を見せ、46 周目には 2 位までポジションを上げる走りを見せました。60 周目に 2 回目のピットインで小松へと交代、フロントタイヤのみ交換して 4 位でコースに復帰しましたが、61 周目に緊急ピットイン。冷却系のトラブルだったため、クルーは懸命に修理を試みますが、エンジン本体までダメージが及んでおり、マシンをコースに戻すことは叶わず、無念のリタイヤとなりました。

この結果、シリーズランキングの 2 位はキープしましたが、首位 13 号車との差は 22.5 ポイントへと開き、3 位 225 号車とは 10 ポイント、4 位 72 号車とは 11 ポイント差まで詰められてしまう結果となりました。

小松一臣コメント

「タイヤ交換してピットアウトしたら、13 号車の前に出られたので 2 位で終われるな、と思ったのですが、次の週の第 1 コーナーでメーターパネルに赤いランプがつかしました。なんだろうと思ったら、今度は水温異常とローバッテリーを知らせるワーニングが点灯しました。バックストレートでチームに(無線で)知らせ、そのまま走り続けようとしたんですけど、加速しなくなったのでスロー走行でピットに戻りました。修理して復調したらまた走り出す準備をしていたのですが、残念ながらリタイヤということになりました」

原剛チーム監督コメント

「今シーズンは良い調子で走れていたのですが、今回はトラブルが出てしまいました。ピットで色々チェックしたんですけど、最終的にエンジンを損傷している様子だったので走行を続けることはできませんでした。原因はウォーターポンプのプーリーが飛んでオーバーヒートしてしまい、同時に発電も止まったという状況です。三井選手がウェットタイヤでスタートしたっていうのも選択肢としては間違いじゃなかったと思うし、小出選手を早めに出したのも追い上げにつながったし、そこまでは良い展開だと思っていたんですけど。その矢先の出来事だったため、余計悔しいです」

最終戦となる第 7 戦富士は 11 月 14 日～15 日に 4 時間レースで開催されます。